

退職校長会相馬支部会報

そうま

第90号

■発行者■

退職校長会 相馬支部
支部長 林 宗一郎

■印刷者■

(有)ライト印刷

「現状と今後に向けて」

支部長 林 宗一郎



昨年の十一月に行われた支部

長会で話題になったのが、「退職校長会」の会員が年々減少しているということである。県でも、現状把握のため、各支部にアンケート調査を実施した結果、以下のような回答が寄せられた。

○定年延長に伴い、役職定年後すぐに退職校長会に入会しようと考えなくなった。退職してから入会するかどうか決めたいて考えている現職校長が多い。

○定年・役職定年後も六十五歳まで、またはそれ以上まで、何らかの仕事についているため、入会するのが難しくなっている。そのため、支部運営にあたる役員になる人が少な

く、支部活動・運営を維持していくのが年々難しくなっている。

○退職後も組織の一員として活動することへの抵抗感を感じている。等である。

今年度の相馬支部総会参加者は二十数名と少なかった。また、年度末に役職定年される校長先生方に入会の勧誘を行ったが、前述のように特例任用終了後、または、再任用終了後に考えたいとの回答をいただいた。

今年度、新入会員はゼロである。さらに高齢化が進んでいる現状を踏まえると、今後どのようにして組織を維持していくかが大きな課題である。

現在、支部活動の努力事項として挙げられているのが、クラブ活動の充実と積極的参加、広報活動（広報そうま、年二回発行）、各地区における現職校長との教育懇談会等である。

現状をみるとクラブ活動は、以前と比べ休部するクラブは増えてきているが、活動を続けているクラブもあり、参加者は会員同士の交流を深め、生き生きと活動に取り組んでいる。また、広報についても、広報を手にすることを楽しみにしている会員が少なくない、と聞いている。

寄稿 「無い物は作れ」

相双教育事務所長 原 田 博 司



私はもともと中学校の技術科教師です。今回は、私が出会った一人の教師について書かせていただきます。

その教師は、私と同じ技術科を専門とし、年齢は私より四歳下です。出会いは地区の中教研でした。協議グループがたまたま一緒になったのです。当時の私は、荒れた学校に勤務し、生徒指導や学級経営に悩む毎日を送っていました。正直なところ、中教研どころではないというのが本音でした。

そんな私をよそに、彼は自作教材について目を輝かせながら

支部存続における今後の取り組みとして、現職校長との懇談会の実施を含め新入会員の勧誘活動を根気強く行っていくとともに、活動のスリム化を図るなど、今できることを模索しながら、会員一人一人の思いに応えられるよう努めていきたい。

語っていました。その姿がとても印象に残っています。彼の口癖は「技術って面白い!」。きつと心の底から授業を楽しんでいたのでしょうか。

その後、私も研究授業や大会での発表の機会をいただくようになり、彼と授業づくりについて語り合うことが増えました。そして気が付くと、私自身も彼の情熱に引き込まれるように技術科教育の研究に没頭していききました。

ある日、地区で開催するロボットコンテストの打ち合わせのため、彼の勤務校の技術室を訪問する機会がありました。そこで目に飛び込んだのが、「無い物は作れ」という大きな張り紙でした。中学生にここまで求

めるのかという驚きとともに、自分自身が勝手に授業の限界をつくっていたことを恥ずかしく感じた瞬間でもありました。実際、彼が指導した生徒のロボットには、薄い木板から自作した直径30センチほどの歯車が使われていました。既製品に比べれば作ればいい。言葉にすれば簡単ですが、それを本気で子どもたちに求め、実現させる教師はそう多くありません。

やがて私は管理職の道へ進みました。一方、彼は震災後、福島県を離れ、他県で教壇に立っています。

振り返れば、彼との出会いは間違いなく私の教員人生に大きな影響を与えてくれました。教師は子どもを育てる仕事だと言われます。しかし、教師もまた教師によって育てられるのだと思います。彼には感謝の気持ちしかありません。

久しぶりに彼に連絡を取って、酒でも酌み交わしてみようかと思っています。きっと、今でも彼はどこかで目を輝かせながら言っているのでしょう。「技術って面白い!」。そんな姿を思い浮かべると、こちらまで元気が出てくるのです。

総会報告及び事業報告

第六十二回福島県公立学校退職校長会相馬支部総会が四月十五日（水）、相馬市民会館多目的ホールにおいて開催され、二十四名の会員の皆様にご参加いただきました。

会の進行は伊藤浩樹様に務めていただき、初めに、この一年間にお亡くなりになられた八名の会員の皆様に黙祷を捧げました。

その後、林宗一郎支部長から、全国連合退職校長会では退会をする県が発生していることや、会員として組織に加わることの抵抗感や定年の延長による会員数の減少等の現状を踏まえ、活動のスリム化に向けた取組が喫緊の課題となっていること等について挨拶がありました。

次に、賀寿二名、賀詞二名、喜寿四名の皆様に祝品贈呈があり、出席された杉浦伸吉様、浜名俊明様が謝辞を述べられました。

続いて、渡邊博之様を議長に選出し、第一号議案から第六号議案までの議事に入りました。

令和七年度の会務報告、会計決算報告、特別会計決算報告、監査報告、令和八年度努力事項・事業計画、会計予算案が原案通り承認されました。

年二回発行している会報「そうま」については、内容のスリム化や諸費の高騰に伴い、今後ホームページの削減を検討することになります。また、クラブ活動については、休部や活動の縮小等も今後の課題となりました。

今年度も、林宗一郎支部長

のもと、引き続き同じ役員で、相馬支部を運営していくことになりました。

新型コロナウイルス等の感染状況を踏まえ、工夫した活動を行うことを基本として、「会員相互の親睦と健康増進を図ると共に、地域の教育振興に資すること」「研修活動の充実と生きがいのある生活の推進に努めること」「叙位叙勲申請の預託を推進すること」の三点の努力事項の達成に向けて、相馬支部内五地区の各校長会との連携を密にして参ります。

今年度は新入会員はおりませんが、今後も、会報等配付世話人の皆様をはじめ、会員皆様のご理解・ご協力をいただきとともに、県本部との連携をより一層図りながら、会の運営・充実に努めて参りたいと考えています。

誠にありがとうございます

◇賀寿（満九十五歳）

佐藤 老 松様

（元 中村第一小学校校長）

佐久間 貞 良様

（元 相馬高等学校校長）

◇賀詞（満八十八歳）

井上 精 三様

（元 小高工業高等学校校長）

青木 紀 男様

（元 原町第一小学校校長）

◇喜寿（満七十七歳）

杉浦 伸 吉様

（元 原町第一中学校校長）

浜名 俊 明様

（元 鹿島小学校校長）

西 信 一様

（元 原町第一小学校校長）

太田 孝 泰様

（元 中村第一小学校校長）

令和八年度福島県公立学校退職校長会
相馬支部役員

相馬支部役員

地区役員

支部長 林 宗一郎

〈新地7〉
会長 加藤 潤一

副支部長 星 和彦

副会長 菅野 耕平

監事 井上 恭一

副会長 吉田 雄二

幹事 梅田 善幸

〈相馬53〉
会長 堀川 幸一

幹事 村田 権一

副会長 渡邊 博之

幹事 午来 勝顕

副会長 伊藤 浩樹

幹事 島 和宏

事務局 小関 洋

理事

新地 但野 良子

〈鹿島16〉
会長 星 和彦

相馬 渡邊 博之

副会長 大谷 一裕

伊藤 浩樹

事務局 阿部テル子

武山 弘 弘

〈原町59〉
会長 草野 正徳

松本 一宏

副会長 清信 悦孝

大谷 一裕

事務局 山邊 彰一

佐藤 光正

〈小高20〉
会長 渡辺 金作

玉川 雄一

副会長 飯塚 宏

山邊 彰一

事務局 金谷 哲

杉内 律子

梅田 善幸

小高

原町

鹿島

相馬

新地





～ 執筆2巡目連載中 ～

再挑戦

大和田 博行



四月から二十四時間自由の身となり、何をして過ごしたらよいかと悩んでいました。そんな時、だいぶ前に買った「ジャズギターテクニク」という本を見つけてきました。以前から使つて

いたギターもあるので、再挑戦することにしました。

スケール（音階）の指づかいはある程度できるのでメロディーの音は何とか出すことができますが、リズムはそうはいきません。シンコペーションや三連符にうまくのることができず苦労の連続です。キーボードのメトロノーム機能を使つて、何とか楽譜のリズムで演奏するのに四苦八苦しています。改めてジャズ独特のスウィング感はずみだと実感しました。

さらに大変なのが、コード（和音）です。四つの音から構成されるコードで、構成音を左手の四本の指で押さえます。中には、どうやってクリアな音を出すのというものもあります。また、四つの構成音だけ出すため、不要な音を出さないことも必要になります。最初はクリアな音を出すことができませんでしたが、何とか音は出るようになってきました。

今は、自分の好きな一曲を弾くことを夢見て、練習に取り組む日々です。

ボールパークで

伊東 敏勝



私は長い間楽天ファンで試合を観戦しています。一時、内にこもる時期がありました。今年には心身の健康のため、多く観戦したいとその良さを紹介します。一つ目はユニホームを着て実際に球場に足を運ぶことです。テレビとは違い、

テンションが上がります。二つ目は、応援のタオルやバットを使って応援団と一緒に応援します。レフトスタンドや、スカイスタンドは特に盛り上がります。また、ジェット風船を飛ばすと、たとえ負けていても楽しい気分になります。

三つ目のこれが大事なのですが、打てなくてもミスしても選手をやじらないで

応援することです。楽天ファンには、そういう人が多いと思います。文句を言っている人は、自分も周りの人も気分が悪くなり健康にも良くありません。試合が終わるまでDJ、チアや応援団、球場スタッフはあきらめず盛り上げます。選手も頑張ります。ナイターでは、自分のペンライトやブレスレットが無線制御で光り、ライブ会場のようです。そんな雰囲気にもた来ようとして次の力が湧いてくるのです。お一人様でも出かけて行って楽しみ、リフレッシュすることが健康に繋がっていると感じています。

りすたーと

村田 権一



五十代の方に人気の宮本浩次率いる「エレファント

カシマシ」というロックバンドがあります。あるゴルフ番組のテーマソングになっている曲がタイトルの「リスタート」です。

ゴルフに取り組むようになったのは、相馬市教委にお世話になっていた時に、当時の教育長さんからすすめて頂いたことがきっかけです。その後いろいろな方やサークルにお世話になって、ゴルフに取り組んできました。あるサークルでは三十代から八十代の方とラウンドする機会があります。若い競技ゴルフと一緒にプレーすると第一打で七十ヤード以上おいていかれます。それに追いつこうとしたのが、間違いのもとでした。自分がどんなゴルフをしたいのか、わからなくなっていました。幸い、最近少しずつ元に戻ってきたような気がします。再任用校長から退職して一年が経ちました。学校教育支援センターの子供たちとともに、自分のゴルフも人生もリスタートさせたいと思っています。今日この頃です。

クラブ活動

囲碁クラブ

大谷 一裕

年間の活動は、次の通りです。

○親睦囲碁のつどい

・十月頃と二月頃に開催する予定

（平日か休日の午後一時から三時頃まで）

・場所（鹿島交流センターか原町区で予定）

・部員と囲碁に関心のある方に、その都度連絡いたします。

・囲碁が初めてという方や部員の家族、知人でも大歓迎ですので、お気軽にご連絡ください。

○囲碁クラブも、年々部員数が減少しています。部員の皆様に、お伺いしながら、休部など、今後の在り方について検討していきたいと思っています。



ゴルフクラブ

大石 力弥

本年四月、総会を開催、役員改選及び事業計画等を決めました。

年十二回の例会は毎月第三月曜日を基本とし、鹿島CCをメインに宮城野GCでも三回ほど実施する予定です。

以前は三十名を超えていた会員も、体力の衰えや健康上の理由で、ここ数年はコンペの参加人数が減少傾向で、二十名を下回ることも珍しくなくなりました。惜しいことに再任用等で若手の参加も進みません。

今年度これまでの優勝者は、四月佐藤宗信さん、五月寺岡弘之さん、六月松本安彦さんです。親睦が一番の目的とはいえやはり勝利は嬉しいもの。他のメンバーもみんな優勝者の仲間入りを夢見て、クラブを握りまわしているところです。

俳句クラブ

江井 芳朗

初めて俳句を作ったのは高校三年で文芸部に所属した時でした。当時、部顧問の先生は俳誌「ホトトギス」の同人であったこと、英語教師でありながら穏やかな和やかな先生でした。

「君たち、俳句を作ってごらん」ということで、その時に作った最初の作品は裏庭に咲く朝顔が寂しそうでした。

先生は部員みんなの作品の良い点を大変褒めました。その上、ガリ版で印刷し、当時の新山駅待合室に全作品を展示されたのです。小高から通学の私は当然新山駅に降り、学校へ通う身なので、恥ずかしさで赤面の至りでした。

先生からは、芭蕉のものの哀れに似た作であると褒められ、俳句への道の第一歩となった作品です。



釣りクラブ

杉浦 伸吉

今年の釣りクラブの日程は下記のとおりです。

六月は小名浜アクアマリン釣り桟橋にてイワシ、アジなどを狙います。七月は相馬港埠頭で五日釣りです。最近はいかやサヨリ（季節・場所限定）なども釣れているようですが、昨年は良型のキスが釣れました。

九月は仙台港釣り公園でサビキ釣りの後、それをエサに泳がせ釣りで青物を狙いたいです。そして、十一月は民宿に泊まり、檜原湖（早稲沢付近）で解禁早々のワカサギ釣りをする予定です。

また、釣り仲間の情報により、声かけあって行う時もあります。

自然の中で糸を垂らし、仲間とお互いの釣果を笑いかう時間は何よりの健康の秘訣です。今年も安全第一で思い出に残るような釣行にしたいです。



パークゴルフクラブ

浜名 俊明

今年度の活動は次の通りです。

○パークゴルフを楽しむ会
毎週火・木曜日の午後
・東武PG場（川子）にて
※初めての方、初心者も参加できます。

○親善パークゴルフ大会
・十月二十九日（木）午後
・東武PG場に於いて
・四コース・三十六ホール
※賞品を多数用意して、多くの方の参加をお待ちしています。

今年度は、十四名が所属し、各自が目的（体力保持や技能向上やダイエットなど）を持って頑張っていると思います。

本クラブも高齢化が進み会員数が減少しています。多くの方に野外での活動の楽しさを味わってほしいです。野外での活動は、気分転換には最高です。

園芸（盆栽・山野草・庭木）
クラブ、保健クラブ、書道クラブ、短歌クラブ、旅行クラブ、将棋クラブは休部中です。

東 西 南 北

新地地区

本年度の総会を、三月二十九日に「旬彩工房まるふじ」にて開催いたしました。全会員が一堂に会するのは一年ぶりでしたが、皆それぞれお元気に過ごされている様子で、和やかな雰囲気の中での再会となりました。

本年度の事業につきましては、例年通り、相馬市退職校長会の事業への参加および現職校長先生方との懇談会を実施することといたしました。

また、地域貢献についても意見が交わされ、各会員がそれぞれの学区において可能な範囲で学校支援に取り組んでいくことを検討していくことで一致いたしました。

(吉田 雄二)

相馬地区

去る四月四日、相馬市教育実践センターにて、今年度総会を行いました。当日は二十一名の皆様にご出席

いただき、事業計画等、承認をいただきました。

今年度は総数五十四名での活動となります。現職校長との合同研修会「重陽会」親睦を深める「紅葉狩り」の二事業を予定しています。感染症や熊対策等、心配は尽きませんが、実施に向けてご理解ご協力をいただき、開催の可能性をさぐってまいります。会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

(伊藤 浩樹)

南相馬市鹿島区

今年の予定は、次の通りです。

- 一、区総会(四月九日、鹿島交流センター、参加者十一名)
- 二、パークゴルフを楽しむ会(できれば全員で)
- 三、教和会(区内小中学校長との情報交換を含む親睦会(時期は学校の事情に合わせて))
- 四、忘年会(十二月上旬頃に、日帰りで実施する予定)

会員全員、無事、健康で過ごせることが、今年度の願いです。(大谷 一裕)

南相馬市原町区

五月八日の総会には、会員十五名が出席し、米寿を迎える青木紀男先生、喜寿の杉浦伸吉先生、金婚の佐藤光正先生のお祝いをいたしました。新会員二名が紹介され、議事では、報告・議案が了承されました。

その後、来賓の伏見伸一郎教育長と太田光秋県議、原町区内の小中高校長六名の出席を得て、和やかに懇親会が開催されました。

九月に役員会を開催し、秋の研修会、懇親会等について協議します。

今年度の会員数は五十九名です。(山邊 彰二)

南相馬市小高区

五月十六日に浮舟文化会館において参加者十名で総会を行いました。活動計画を協議したり、近況を語り合ったりしました。

また、小高小学校の林典行校長先生、小高中学校の小林喜徳校長先生において

いただき、小中学校の一貫校としての現状や課題、特色ある教育活動などについてお話しいただきました。

今年度の活動としては、会員の原稿をもとに「黒松会だより」二十二号の発行を予定しています。今年度の会員数は十九名です。

(金谷 哲)

ご冥福をお祈り 申し上げます

故 涌井 幸雄先生(94歳)

令和7年12月29日逝去

昭和28年東北大学卒。飯曾村立飯曾一小を振り出しに太田中や合併した原町三中、小高中に勤務した。

昭和53年浪江町立津島小教頭に昇任。双葉南小を経て昭和61年檜葉南小校長に昇任。平成元年に南相馬市立石神二小校長となり、平成4年同校で退職した。

故 志賀 英隆先生(94歳)

令和8年1月23日逝去

昭和27年福島大学卒。伊南村立伊南小を振り出しに、鹿島小や石神一小に勤めた。

昭和44年飯館村立佐須小教頭に昇任。八幡小、原町三小等の教頭を経て、昭和57年津

島二小校長に昇任。その後海浜青年の家指導課長、原町二小校長、原町市教委学校教育課長、平成元年原町一小校長となり、平成三年同校で退職した。その後原町市社会教育委員を務めた。

故 小丸 源一先生(82歳)

令和8年1月23日逝去

昭和39年宮城県農業短期大学卒。同年常磐市立磐崎中学校に赴任。磯部中学校、向陽中学校等に勤務し、平成6年相馬市立玉野中学校教頭に昇任。尚英中学校教頭を経て平成10年飯館村立飯館中学校長に昇任。平成14年相馬市立磯部小学校長として着任し、平成16年同校を定年退職した。

故 杉崎 秀信先生(92歳)

令和8年4月17日逝去

昭和31年福島大学卒。同年大館村立大館小学校教諭を振り出しに、日立木小、飯豊小等に勤務し、昭和61年檜葉南小教頭に昇任。新地小教頭を経て平成3年相馬市立玉野小学校長に昇任。平成5年山上小学校校長に着任し、平成7年同校を定年退職した。退職後は相馬市にて社会教育指導員を務めた。

